

河井継之助と加茂

幕末の長岡藩 家老 上席

旧加茂町の 大庄屋・市川家の謎

河井継之助（つぎのすけ）

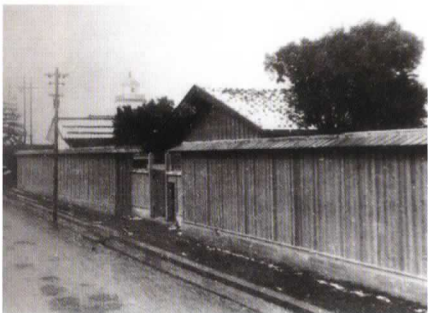
- ・ 文政十年（一八二七）生まれ
- ・ 性格 人情に厚くお節介者。常識にとらわれない
- ・ 新しい価値観と強い信念がある。
- ・ 北越戊辰戦争の長岡城奪還に成功するも被弾し、四十二歳（満年齢）で逝去。



NHKの大河ドラマ
八重の桜にも
少しだけ出演していました！

★大庄屋・市川家

幕末から明治にかけて加茂郷一帯の大庄屋・地主である市川家は、豪農・豪商として近隣の経済界に大きな恩恵をもたらしました。



明治中期の市川邸宅、他所の大庄屋や豪農と比べても、とても質素な家構えです。

★北越戊辰戦争の加茂軍議とは？

慶応四年（一八六八）五月二十二日と二十三日に旧加茂町の 大庄屋 市川正平治（いちかわしょうへいじ）邸において行われた奥羽越列藩同盟軍（東軍）の各藩代表による会議のこと。

Q 加茂軍議では何が決まったの？

長岡落城後、新政府軍（西軍）を越後から追い出すことを目指していた継之助は、この加茂軍議に集まった会津、米沢、桑名、村上、村松、上山の各藩と旧幕府の諸将とはかって一致協力し長岡城の奪還を期すことを決めます。

この加茂軍議は、奥羽越列藩同盟が統一した見解で戦争をしようとした一番のきっかけとなりました。

しかしながら、これほど重要な軍議であったにもかかわらず、詳しい内容はよくわかっていません。当時は、戦争が禄高を上げる重要な機会であり、戦争記録に比べ交渉事や会議はあまり重要視されず、記録が残されていないのです。



現在の市川邸跡（市内本町2-1）。碑は明治11年の北越御巡幸の際、天皇が市川邸で御昼餐を召された行在所跡。

皆さんは幕末の長岡藩士「河井継之助（かわいつぎのすけ）」をご存知ですか？
作家・司馬遼太郎のベストセラー小説「峠」の主人公として一躍全国的に有名になった継之助ですが、実は加茂にも幾度となく訪れています！

継之助は、禄高百二十石の家柄でしかない中堅藩士でしたが、その資質を当時の藩主牧野忠雅に見出されます。後に、郡奉行に抜擢された継之助は、不正を行う村役人の不法な特権を無くし、さらに余剰米を藩直営で売りさばくことで財政を豊かにするなど、長岡藩の藩政改革を次々と断行しました。

北越戊辰戦争が勃発すると長岡藩総督として少ない軍勢ながらも一度は落城した長岡城の奪還に見事成功します。（その際に継之助は左膝に被弾し、長岡藩兵の士気が衰えたことにより長岡城は再度落城することになるのですが…）

どうやらその奪還劇の裏に加茂との深い係わりがあるようです！

